

式辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、入学後、勉学に励まれ、研鑽を積まれて、それぞれ、学士、修士、博士の学位を取得されました。神奈川大学の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。また、本日は、御父母の皆様、関係者の皆様にも多数ご列席いただいております。今日まで長年守り育て、支えてこられたご労苦に対して、深い敬意とともに、心よりの感謝を申し上げます。

神奈川大学の卒業生は、すでに 22 万人を超えており、数ある日本の四年制大学のなかで、卒業生数は 10 数位に位置づけられております。本学の卒業生組織である宮陵会は、全国に地区組織を持つほか、ロサンゼルス、上海、バンコクなどの海外主要都市でも組織化されております。卒業生は、国内外で活躍されており、なかには、昭和 61 年に経済学部を卒業され、連結従業員数 36 万人を数え、世界に冠たる日本の代表的企業であるトヨタ自動車株式会社の常務役員に、平成 27 年 4 月に 51 歳の最年少で就任された宮崎洋一氏などもおられます。諸君らは、今後、これらの諸先輩とともに本学卒業生の会である宮陵会の一員として名を連ねることになります。

なお、皆さんが本学に戻られたときに、憩いの場所ともなる「宮陵会館」が、来年 3 月には竣工予定です。ベビールームなども併設してありますので、本学に戻られたときには、是非ご利用ください。また、昨年暮れに本学ホームページに UP しましたが、ここみなとみらいに高層ビル型の新キャンパスを設置する予定です。未来社会を先導する本学の動向にご期待ください。

さて、皆さんが学ばれた神奈川大学とは、いかなる学び舎であったのでしょうか。近年、大学の評価は、第三者機関による世界基準に則して示されるようになっていきます。たとえば、昨年秋にイギリスの高等教育情報誌である、タイムズ・ハイヤー・エデュケーションが発表した「T.H.E. 世界大学ランキング 2018」に、本学が世界の上位 5% 内の大学としてランキングされました。このことは、本学が世界有数の大学の 1 つだということを意味しています。この評価の根底には、本学の研究と教育力の高さがあります。大学の評価は、世界では、入試の偏差値などではなく、社会に貢献できる研究と教育力にあるのです。このことを良く理解してください。

本学は、創立者の米田吉盛先生が「人は実業家や学者、官僚である前に、まず人間であれ」と説いて以来、卓越した研究を推進するとともに学問による「人づくり」に努めてまいりました。皆さんは、日々の学問、すなわち、学びて問うことを通して、生涯の糧となる自ら考える力を培い、未来社会を担う見識を深めてこられました。

加えて本学では、人としての生きかた、物事の善し悪しなどを判断する能力を培う教養教育を重視してまいりました。皆さんの中には、教養科目の文学の単位を取られた方も多いと思います。文学は、人間行動の礎となる思考力と感情や精神の深みを題材にしております。今後皆さんが直面する現代的な課題においては、人間の感情と精神が複雑に絡んでいることが少なくありません。このことから、文学で追体験した感情や精神の動向は、ときに現代の課題解決のための有用な気づきや糸口を皆さんに与えてくれるでしょう。また、教養科目の歴史学も同様です。人類のこれまでの長い営みを顧慮し、歴史的真相を検証することで、われわれの現在の立ち位置や位相の確認と政策の評価や判断のための気づきと学びに溢れていたものと思います。

教養を深めることの大切さを、しっかりと皆さんの心に留めるようにしてください。

皆さんが取得された学位には、これを契機として、生涯を通して精進されることへの期待も含まれております。新世紀に入り、私たち人類はますます多角的な価値観と複雑な社会構造のなかで生きていかねばなりません。また、多くの課題にも直面することでしょう。そのときには、なにより「人間に対する尊厳」を第一に考えてください。そして、未来の人類への責任としての「地球環境」への配慮も必要です。

近年のグローバル市場の進展はすさまじく、国際資本による取引が世界を駆け巡り、すべての発展途上国もグローバル市場に組み込まれ、地球資源の取引を通じた「地球環境」の破壊が進み、さらに低賃金労働や長時間労働等により「人間への尊厳」が置き去りにされ、経済的な格差の拡大と社会的排除や現代社会の分断問題等をも現出するに至っています。市場の論理では、安価な生産要素もグローバル市場で取引されますが、生産要素の1つである労働の担い手は、皆さんと同じ生身の人間であることを、忘れないようにしてください。

とはいえ、このような急速なグローバル化がもたらした様々な課題に対して、未来社会を見据えた動きも進んでおります。たとえば、企業活動に、業績とともに、「人間への尊厳」や「地球環境」への取り組みを求める巨大資本の動きなどがあげられます。これらは、国連のサステナビリティ革命に連動して、「人間の尊厳」と地球資源の有限性に配慮した持続可能な社会の実現に寄与する運営を企業に求めるものです。皆さんが勤務する会社においても、同様な責務がますます問われることになるでしょう。

「地球環境」の問題については、本学の様々な授業で学ばれたと思います。私も、数年前に出版した著書・テキストにおいて、租税の一般原則としての公平・中立・簡素の3原則に加えて、「環境共生性」の原則がこれからは必要になる。そして、「人類の喫緊の課題とされる地球的規模での環境問題に対して、人類が今後うまく環境と共生できるように税も対応すべきである」と記したところです。新しい経済学によれば、環境保全のための支出は、経済成長のためのやむを得ない犠牲としての「費用」ではなく、守るべき環境である自然資本への必要な「投資」として捉えています。環境が守られて経済が成長し得る、という考え方に変わってきました。

また、日本は人口減少社会に突入しています。日本の人口は、2010年から2015年の5年間で約95万人減少しました。今後も急カーブを描いて人口が減少すると推計されています。一方、経済力が最も高い東京都の出生率が最も低く、一人当たり県民所得の低い沖縄県の出生率が高い事実をどう解釈すべきでしょうか。

経済学の泰斗であるジョン・スチュワート・ミルは、『経済学原理』において、人間の経済はやがて成長を終え、定常状態に達するが、経済成長を絶対的な目標としなくても、持続可能な真の豊かさや幸福を得られるのではないかと論じています。真の豊かさや幸福について、ふるさとや地方で生活することも含めて皆さんとともに考えてみる必要があるように思えます。

さらに、近年のIOTとビッグデータに基づく人工知能の急速な進展は、産業構造の転換や労働の質的な転換のみならず、パラダイム転換を伴う資本主義社会の大きな変容をもたらすことが想定されております。皆さんが提供する労働に対しても、質的な転換とともに新しい労働の価値を生み出すことが求められるなど、大変厳しい現実と直面することを覚悟しなければなりません。いずれ、人間の知能を超えて際限のない進化が進むとされる人工知能に対して、これらを制御する側の人間に何が求められるのでしょうか。難しい課題ですが、これらの判断においても、「人間の尊厳」を忘れないことが大切です。

現在の資本主義社会のさまざまな問題を乗り越え、新しい社会を作り上げる課題は、とりわけこれから巣立つ若い皆さんが主導的に解決していかねばなりません。人種、民族、宗教を超えて、多様な価値観を理解し、「地球環境」とともに人類が共生する持続可能な社会を創生する人材は、「人間の尊厳」を大切にしたい、自ら考える力を備えた教養のある神奈川大学の卒業生から生まれるものと信じます。

最後になりますが、「人をつくる」大学である神奈川大学で学んだことを誇りに、実社会においても学ぶ姿勢を忘れず、より賢明な社会の実現に皆さんなりに貢献されることを期待しています。そして、皆さん一人ひとりが「尊厳ある人間」であること、未来を担う社会の財産でもあることをも自覚して、健康に心がけて、皆さんの人生がより良いものになりますよう心より祈念して私からの式辞といたします。

2018年3月19日

神奈川大学長 兼子良夫

